

1. 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

志比南小学校PTA代表(1) 民生委員代表(2) 見守り隊代表(1) 公民館長(1) 教職員(3)(校長・教頭・教務)
地域コーディネーター 家庭・地域・学校協議会委員 が兼ねる

(2) 協議会の内容

年2回開催 6月：本会の趣旨、活動方針の説明、協議 本校の教育方針、教育計画の説明 2月：学校評価の考察 今年度の行事報告 今後の活動とその関わり方の検討 次年度の組織、活動の見直し
---

(3) 協議会における成果と課題

今年度の活動で、新しい学習指導要領のめざす「社会に開かれた教育課程」への道筋が見えてきた。協議会の委員がコーディネーターとなり、学校と地域とを結びつけてくださり、子供たちの活動に地域の人材を積極的に活用することができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の自然文化やいろいろな人との温かいつながりを通して人間性豊かなたくましい子を育成したい。そこで、本校は「地域に学び、地域とつながる南っ子」を活動推進のテーマとし、地域全体を学びの場とした活動を積極的に取り入れていきたい。そして、学んだことを地域に発信したり、地域のPR活動につなげたりすることで、地域との連携を深め、自然溢れる町としての永平寺町に愛着を感じ、ふるさと南地区を大切に思う児童を育成することをねらいとする。

(2) 活動の実際

①令和記念の花壇をつくろう

本校の花壇は、敷地のすぐ横にある旧永平寺線(京福電車)の線路跡を利用した遊歩道「参ろ一ど」沿いに整備されている。昨年度より、この花壇を利用して季節の花を育ててきた。今年度は、令和元年の記念の年となり、令和にちなんだデザインを全校児童から公募したところ、本校で取り組んでいる「礼の心」の礼と、「令和」の令をかけて、カタカナで「レイ」が浮かび上がるようなデザインに決めて、花壇作りを始めた。

土台づくりには、委員会の児童だけでなく、6年生全員の力を結集させた。種まきや苗の世話、移植、草とり等は、委員会の児童を中心に行い、教職員が水やり等の支援をしながら、花壇の成長を見守った。

8月は、例年がない残暑で、サルビアが枯れ始めるなどの被害もみられたが、10月初旬まで、花は咲き続け、



地域の人や参ろ一どを通行する人々の目を楽しませてくれた。また、花壇に使わなかった苗は、地域の人に持って帰っていただいて、各家庭で育ててもらったり、幼稚園に届けて、園児やその保護者にも楽しんでいただいた。



## ② サクラマスが遡上するきれいな桜川にしよう

本校校舎横を流れる桜川は、初夏にはホタルが飛び交い、秋にはサクラマスが遡上する自然豊かな河川である。ただ、近年の河川工事や豪雨の影響もあり、その美しい姿が見られなくなってきているのが現状である。そこで、地域の自然環境に関心を持たせようと、サクラマスの卵を地域から提供していただき、学校内で孵化させ、稚魚になったところで放流する取組を継続している。放流の際には、地域で活動をしている「サクラマス遡上の会」のメンバーの方々の協力を得て、サクラマスの一生についての学習会も行った。また、今年度はこの事業を引き継ぐ4年生が河川美化運動に取り組み、ビニールなどのプラスチックごみの回収を行うなど、美しい環境を維持するために活動した。



## (3) 地域コーディネーターの活動概要

家庭地域学校協議会の委員の中には公民館館長や公民館で中心となって活動している方がおり、ジャンボひまわりの栽培やサクラマスの放流、ホタルの飼育などで地域人材の確保に協力をいただくことができた。

## (4) 特に工夫した事項

2年目の取組として、1年目の事業を継続しつつ、これらの活動の様子や成果を地域にいかに関心をもち、発信するかに重点をおいた。その結果、4年生の河川美化運動が新聞やテレビで紹介されたり、5年生が校内発表会に向けて作成した「サクラマスの一生」の資料などが、地元の公共施設で展示されることになったりした。児童にとって、自分たちの活動が広く紹介されることで、活動への意欲と継続への強い意志をもつことにもつながった。

## (5) 成果と課題

地域の方々と一緒に課題に取り組み、その成果を地域に発信することで、より多くの人に活動を理解していただくことができた。「テレビを見ました。」という地域の人々の声を聞くことも増えてきた。新しい学習指導要領の柱の一つである社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域に根ざした本校独自のカリキュラムの編成がみえてきた。さらに、校内の発表会を通して、それぞれの学年の活動が学校全体に周知され、次は自分たちの番だという意識が芽生えていることも大きな成果といえる。ただ、活動をどう引き継いでいくかとなると教師の手が入らないとできない。子供同士で引き継いでいけるような運営方法も検討していきたい。また、地域に広がった活動への関心が、学校へ足を運んでくださることにつながってくれることを願ってやまない。そのためにも、年度当初に地域コーディネーターとの連絡会を設定し、南地区の課題を共有する機会を設けて、より多くの人と活動が展開されるよう、協議を進めたい。